

履歴書

氏名 AHMED MOHAMED FATHY MOSTAFA
生年月日 1956年5月27日
現在住所 (Egypt) 7 Ahmed Lotfy Elsayed.St Elharam Giza TEL (20) 161169240
(Japan) 〒631-0025 奈良市学園新田町 3034-2-604 TEL0742-41-5815
携帯電話 090-6600-5815

学歴

1974年9月 カイロ大学文学部日本語・日本学科入学
1978年8月 同上・卒
1978年10月 大阪外国語大学日本語学科大学院前期研究生
1980年4月 同上修士課程入学
1982年3月 同上終了・修士号取得
1983年4月 中京大学大学院博士課程文学研究科中世文学専攻入学
1987年3月 同上単位取得満期退学
1992年3月 同上文学博士号取得

職歴

1978年10月 カイロ大学文学部日本語日本文学科助手
1984年10月 同上・助講師昇格
1992年12月 同上・専任講師昇格
2003年3月 同上。准教授昇格
(1998~1999年 国際日本文化研究センター客員助教授)

業績

- 修士論文 (水をまつわる日本・エジプト諺の比較研究)
- 博士論文 (『義経記』、『ベーバルス王伝説』における日本・アラブ英雄像の比較研究)
- 学術論文
 - 1・「『肥った女』・戦時下に生きる都会の若者たち」、『中京国文』、中京大学文学部紀要、1998年3月
 - 2・「『愛玩』・生活能力を欠いた一家と回復への期待・安岡章太郎の「戦後」の始まり」『日本研究』、国際日本文化研究センター紀要、第19集、1999年6月
 - 3・「『ハウス・ガード』『ガラスの靴』・被占領者の屈辱」、『日本研究』、国際日本文化研究センター紀要、第20集、2000年2月
 - 4・「日本とイスラム文化における旅と巡礼」、『姫路法学』、姫路独協大学紀要、第29、30合併号、2000年
 - 5・「日本戦後文学における“戦後”は果たして終わったのか」、『国際シンポジウム』、国際日本文化研究センター、2000年
 - 6・「昭和30年間の日本人精神史・安岡章太郎はこう語った」、同上、2007年
 - 7・「『家族団欒図』・父親の再婚と敗戦の終焉」、『日本研究』、国際日本文化研究センター紀要第41集、2010年3月
 - 8・「野坂昭如文学におけるアメリカ・コンプレックス」、『教育研究論集』(横浜国立大学紀要)第19号(特集・カイロ大学シンポジウム2010年開催)、2011年3月
- 翻訳活動(日本文学物など、日本語からアラビア語への直訳)
 - 1・安岡章太郎著『海辺の光景』、MERIT出版社(カイロ)、2000年1月
 - 2・安岡章太郎著『宿題、その他』、同上
 - 3・津島佑子著『光の領分』、同上
 - 4・大塚健洋『大川周明』、ALAHRAM ADVERTISEMENT社、1998年6月

- 5・(作者不明伝説)『弁慶物語』、MERIT 出版社(カイロ)、2001年7月
- 6・安岡章太郎著(蛾、その他)、同上
- 7・小島信夫著『アメリカン・スクール』、MERIT 出版社(カイロ)、2002年11月
- 8・吉本ばなな著『つぐみ』、同上、2003年3月
- 9・瀬戸内寂靜現代語訳版『源氏物語』(抄訳)、MERIT 出版社(カイロ)、2004年10月
- 10・目取真俊著『水滴・風音』、SANABIL 出版社(カイロ)、2005年11月
- 11・美智子妃殿下著『はじめての山のぼり』、国際交流基金、2006年
- 12・(作者不明伝説)『義経記』、NAWAFEZ 文学活動協会(NPO)出版(カイロ)、2009年6月
- 13・藤原定家編集『百人一首』、同上、2009年9月
- 14・扇田昭彦著『日本の現代演劇』、エジプト文化省実験劇場フェスティバル実行部出版、2009年11月
- 15・『竹取物語』、NAWAFEZ 文学活動協会(NPO)出版(カイロ)、2010年8月
(翻訳出版物の7、8、9、10、11、12、13そして15はみな日本国際交流基金翻訳助成金プログラムの枠内で刊行されている)
- 16『落窪物語』、SANABIL 出版社(カイロ)、2013年2月

●文化・社会活動

- 1・2007年以来、国際日本文化研究センター翻訳助成金プログラム・アドバイザーボード
- 2・カイロ大学日本語学科 OB・エジプト人日本語話者協会(NPO)会長
- 3・カイロ国営ラジオ放送 FM 文化チャンネル・レギュラー日本文学評論家
- 4・2014年11月1日より、国際日本文化研究センター紀要『日本研究』編集顧問就任(4年間契約)

●日本滞在歴(期間、目的、受けたグラント。国際交流基金の招聘歴)

- 1・1977年3月(2週間)、カイロ大学日本語学科在学中、日本語能力優秀者として国際交流基金による短期研修プログラムの枠内で同基金の招聘を受け訪日
- 2・1978年10月～1982年3月、日本文部省奨学金を受けて日本留学(大阪外国語大学)
- 3・1982年4月～1987年7月、エジプト高等教育省の奨学金を受けて名古屋の中京大学文学部国文学科大学院後期在籍
- 4・1990年7月～1991年11月、国際交流基金博士論文執筆プログラムにより日本へ招聘され、中京大学で博士論文完成、文学博士号取得
- 5・1997年8月～1997年11月、国際交流基金日本研究フェローシッププログラムにより日本招聘さ、帝塚山学院大学にて外国人研究者として在籍
- 6・1998年7月～1999年7月、国際日本文化研究センター(日文研)客員助教授として日本・京都滞在
- 7・2006年2月～2007年2月、国際交流基金日本研究フェローシッププログラムにより日本招聘、沖縄国際大学にて外国人研究者として在籍